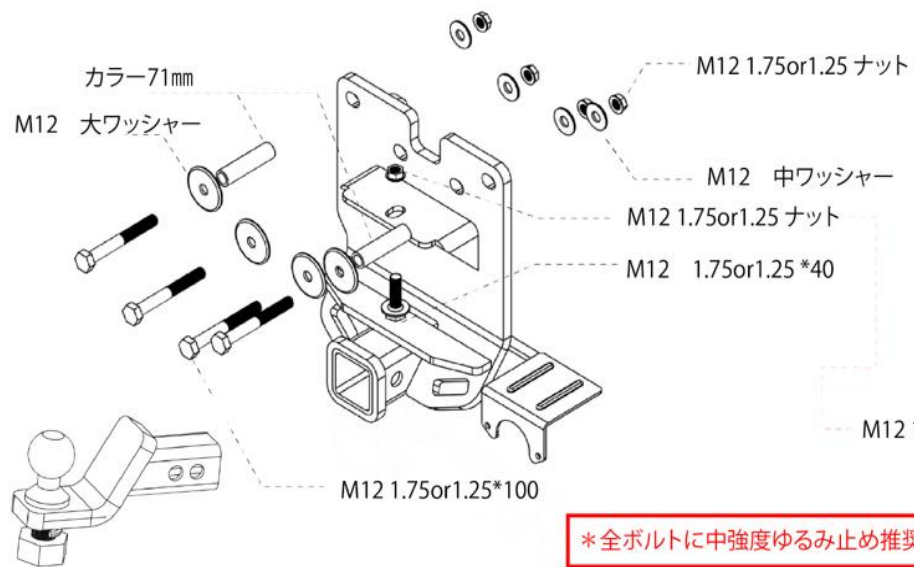


締め付けトルク

ボルト名称	サイズ	締め付けトルク (N//m)
コネクター取付ボルト	M6	3.47
ヒッチメンバー取付ボルト	M8	22.5
	M10	44.5
	M12	77.6
	M14	124
ヒッチボールナット	M27	500

取り付け手順

1	リアバンパーを外しスペアタイヤを下ろしてください。
2	ヒッチメンバー本体を図のように穴に合うようにあてがい車体フレーム下側に13πの穴をあけるために墨付けをしてください。
3	墨付けした場所に13πの穴をあけてください。その際フレーム内部の後方側に穴開け、内部の段差に注意してください。
4	ナット挿入口からM12 ナットを入れヒッチメンバー本体を付属のボルトを使用し仮止めしてください
5	M12*40のボルトを最初に軽く締めM12*100のボルトを締めてください。
6	M12*40のボルトを締める際、挿入したナットがフレーム内部の段差に干渉しない用にしてください。
7	最後に全体のバランスを確認しながら規定トルクにて本締めしてください。
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

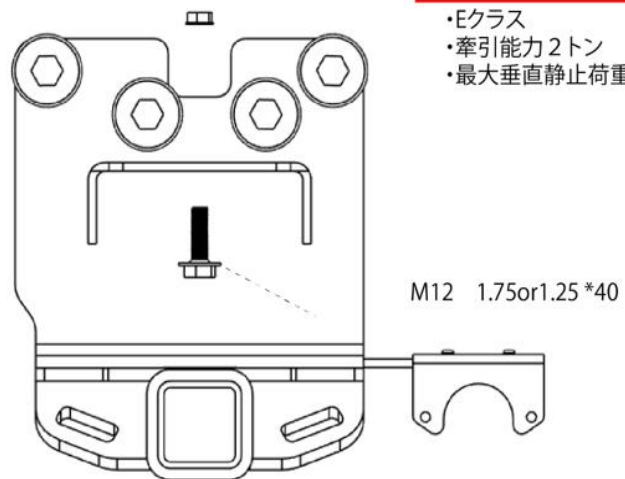


M12 1.25or1.75 ナット挿入口

13π穴あけ

全ボルトに中強度ゆるみ止め推奨

- ・Eクラス
- ・牽引能力2トン
- ・最大垂直静止荷重200Kg



この度は、タイトヒッチをご購入いただき誠にありがとうございます。
本製品を安全に正しくご使用いただくために、この取り付け説明書等をよくご確認ください。

構成部品 LC250 Eクラス

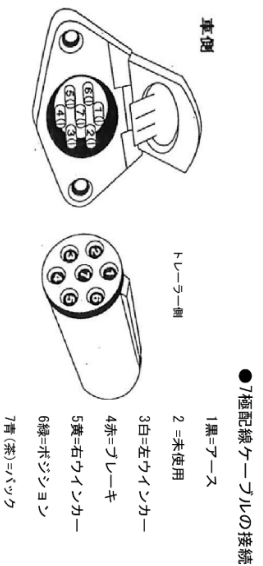
No.	名称	個数
1	ヒッチメンバー本体	1
2	ボールマウント (スラントロー)	1
3	ヒッチボール (ショート)	1
4	ボールマウントロックキー	1
5	7極コネクター (車側)	1
6	6芯配線セット	1
7	M12 1.25*100	4
8	M12 1.25 ナット	4
9	コネクターボルトM6	4
10	カラー71mm	2
11	M12* π 50 ワッシャー	4
12	M12中ワッシャー	4
13	M12 1.25* 40 ナットセット	1
14		

取付上の注意

- ・ 取付作業を始める前に構成部品の不足、不良等を確認してください。
- ・ 製品の製造、梱包には万全を期しておりますが、部品の不足、不良等ございましたら、お買い上げの店舗までご連絡ください。
- ・ ステンレスボルトナットは焼き付きを起こす恐れがありますので、潤滑剤等を使用し、締め付けてください。
- ・ ドリルを使用する作業は、電気配線の巻き込みや、誤った位置の穴あけ等にご注意ください。
- ・ 各取付ボルトは、適正トルクでしっかり管理してください。

TIGHT HITCH。取扱説明書

電気配線コネクタ配線図



ヒッチメンバー取付に関する注意事

ヒッチメンバーを車両に取り付けける事は必然的に車体から突起物(ヒッチメンバー)が増えることとなります。ヒッチメンバーが地面に接触したり後方の物や人に損傷を与える可能性があります。トレーラー用電気配線を車外に設置することで悪天候での走行でコネクタラック内に水が溜まつたり、コネクタ一部分が地面やその他に接触することで車両本体の電気系統に支障をきたす場合があります。ヒッチメンバーは車両に取り付けられた時点から劣化が始まります。車両の下部に取り付ける事になりますので使用頻度に関係なく金属が劣化します。特に道路に散布される凍結防止剤等が劣化を早める要因になります。使用頻度に関係なく常に牽引前は必ず点検を行い錆や亀裂、上から力をかけて異常などがあれば使用を中止してください。これらの事を十分にご理解いただいたうえでヒッチメンバーを取り付けてご使用ください。

配線注意事項

- 電線が触れてシヨートしないように注意して下さい。
- ボディーとの摩擦、接触がある場合はテープ等で保護して下さい。
- 電気配線コネクタター側にし込む配線先端は弱いので必ずハンダ付け、もしくは専用コネクタを取り付けてから差し込んで締め付けて下さい。
- 配線終了後はトレーラーと連結して点灯確認して下さい。
- 防水の為、差し込み側と配線側にグリスを差して下さい。
- コネクタ一部分を水中につけないでください。

取扱注意事項

- このヒッチメンバーで750kg以上(車種によっては400kg以上)のものや、自動車などを牽引しないで下さい。
- 出発前の点検時に歪み、亀裂、ボルトの緩み、脱落等を発見した場合に直ちに使用を中止して下さい。
- トレーラー牽引中は、起伏の激しい道路や舗装されていない道では必ず徐行して下さい。
- 強度低下につながりますので、分解、改造をしないで下さい。
- ヒッチメンバーを取り付けると地面とのクリアランスが少なくなりますので、勾配のついた出入口や車止め等に当てないように注意して下さい。
- 最大垂直静荷重(カブラー(荷重)が10kg以上45kg以下の範囲を超えないようにトレーラー種載物を調整して下さい。
- 車側ボクシヨック、ハザード等電気が流れている状態で、配線電氣カブラーの抜き差しをしないで下さい。

ヒッチメンバーの許容範囲

ヒッチメンバーの許容範囲についてA, B, Cクラスと牽引能力を定めております。

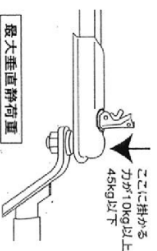
- A・・・車両総重量400kg以下のトレーラー
 - B・・・車両総重量500kg以下のトレーラー
 - C・・・車両総重量750kg以下のトレーラー
- 最大垂直静荷重(止まっている状態でヒッチポール部分に垂直に掛かる荷重)は10kg以上45kg以下

キャンピングトレーラーの場合、トレーラーの車検取得時に車両総重量750kgで登録されていますが、実際の使用時には総重量を超えている場合が多く見られます。ガスボンベ、エアコン、その他のオプシヨック部品と家具(テレビ、レンジ、食器)などが検査の後に積み込まれますので、かなりの重量となります。

特に危険であるヒッチポール部分に掛かる最大垂直静荷重(カブラー(荷重)も許容範囲を超えてしまいます。ホトトレーラーの場合でもボルトの積載位置や、セツインクが悪いと同じこととなります。

当社の推奨する最大垂直静荷重(止まっている状態)は10kg以上45kg以下です。すなわちトレーラーのクリアランス部分を人の力で持ち上げることが出来る位としています。仮に最大垂直静荷重が45kgとした場合、実際に車が走行すると45kg×2.5倍=112.5kg位のカカ車の最後に掛かる計算となります。

ヒッチメンバーの許容範囲はもろもろカブラーに掛かる垂直荷重の方が十分に注意が必要です。



最新の衝撃吸収ボディーや燃費向上を図った軽量化のため、特にモノコックボディーは、車は車側の取付部分弱く、破損する恐れがあります。

そう言ったことが起こらないよう、トレーラー車両総重量を必ず厳守していただき、キャンピングトレーラーは荷重が前方(カブラー一部分)に掛かり過ぎないように室内の荷物を調整し、ボルトトレーラーもボルトの積載位置を調整するなどして下さい。

どうしても許容範囲を超えて使用する場合はヒッチメンバー又は販売店にお問い合わせ下さい。

ヒッチメンバーの牽引能力、ヒッチポール部分に掛かる最大垂直静荷重(カブラー(荷重)の許容範囲を超えてのご使用は当社では一切責任を負いかねますのであらかじめご了承下さい。

▲ 走行前は必ず以下の点検を行って下さい ▲

- 各溶接部の亀裂。
- 各取付ボルトの緩み、亀裂、脱落。
- 灯火類の点灯確認。
- ヒッチポールの緩み、腐食、亀裂。
- ボルトナットの亀裂、歪み。
- ボールドラウソックの装着確認。